様式第3号

自己評価報告書（最終報告）

報告者	言語系コース（英語） ／伊東　治己

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ．学長の定める重点目標

Ⅰ－1．科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され，教員の研究費配分も厳しくなってきており，教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで，科研費申請に向けて，あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

1．目標・計画

現在，基盤研究C「フィンランドの学校英語教育の有効性に関わる要因分析的研究」を行っており，2012年度が3年間の研究の最終年度となる。そこで，平成24年度は3年間にわたる研究の成果を公刊するために，研究成果公開促進費の申請を行う予定である。加えて，新たな研究テーマ（フィンランドの英語教育における学習支援の実際とautonomy とagencyの育成）で新規の基盤研究Cへの申請を行う予定である。

2．点検・評価

①基盤研究C「フィンランドの学校英語教育の有効性に関わる要因分析的研究」での研究成果を公刊するために，研究成果公開促進費の申請を行った。
②現在の基盤研究Cの研究が最終年度を迎えたため，あたらしく基盤研究Cへの申請を行った。テーマは小学校英語担当教員の養成に変更した。
③現在，基盤研究B（ポートフォリオ的アプローチによる未来指向型英語指導モデルの構築）に関しても，研究分担者となっており，研究2年目の活動を全うした。

Ⅰ－2．大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で，あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか，具体的に示してほしい。

1．目標・計画

①非常勤講師として授業を担当している大学（四国大学及び神戸大学）において，大学院進学を勧める。
②公開講座や免許更新講習を利用して，受講生の方々に大学院での勉学・研究を勧める。
③都道府県の教育委員会主催の教員研修に講師として招聘された折に，研修参加者に対して大学院での勉学・研究を勧める。
④学会で積極的に研究発表を行い，間接的に本学大学院での勉学・研究を勧める。
⑤英語教育関係の商業誌等に本学の大学院入試に関する情報を掲載してもらい，読者に大学院での勉学・研究を勧める。

2．点検・評価

①非常勤講師として授業を担当している四国大学及び神戸大学において，受講生に大学院進学を勧めた。その結果，四国大学から一名が受験し，合格した。
②公開講座や免許更新講習を利用して，受講生の方々に大学院での勉学・研究を勧めた。
③沖縄県，奈良県，徳島県での教員研修講座講師を務め，受講生に本学大学院への進学を勧めた。
④英語授業研究学会，全国英語教育学会，日本教科教育学会で研究発表を行い，間接的ながら本学大学院の宣伝を行った。
⑤大修館書店の月刊誌『英語教育』編集部に本学大学院の受験案内を掲載を依頼し，掲載して頂いた。
⑥大学の中央経費を使って，九州産業大学と熊本尚絅大学を訪問し，教員・学生に対して本学大学院（特に長期履修制度）の説明会を実施した。

Ⅱ．分野別

Ⅱ－1．教育・学生生活支援

1．目標・計画

①オフィスアワーやゼミ等をフルに活用し、個々の学生の能力や希望に応じた学習支援を行う。
②海外研修や留学に関する相談に随時応じて、学生による国際交流活動を促進する。
③英語コミュニケーションＶ（学生海外派遣プログラム）を実行し、本学学生に海外生活体験の機会を与える。
④留学生が本学での留学生活をスムーズに行えるよう，学業面・生活面で支援する。

2．点検・評価

①学習支援の成果として，学部4年生のゼミ生が兵庫県の教員採用試験（高校英語）に合格した。
②複数の学生から留学に関する相談を受け，アドバイスを行った。
③本年3月に，9名の参加者を得て，オーストラリア研修（英語コミュニケーションＶ）を実施した。付き添いとしても同行した。
④自分のゼミに所属している4名の留学生（うち一人は教員研修留学生）に対して，個々のニーズに合った支援を行った。特にインドネシアからの留学生（M2）に対しては，途中帰国措置も含め，木目の細かい指導を行った。終了後の現在も，慎重に対応している。

Ⅱ－2．研究

1．目標・計画

①従来からの研究テーマ（英語教育学）をまとめ、学会で口頭発表をする。
②従来からの研究テーマ（英語教育学）をまとめ、学会誌に投稿する。
③現在特に力を入れているフィンランドの英語教育に関する研究をさらに進める。

2．点検・評価

①英語授業研究学会，全国英語教育学会，日本教科教育学会で口頭発表を行った。
②全国英語教育学会誌に論文を投稿し，掲載された。また，連合大学院の指導学生との連名での共著論文が大学英語教育学会紀要にも掲載された。
③フィンランドの英語教育に関する科学研究費補助金研究を2つ（うち1つは最終年度）抱えており，順調に研究を進めてきた。9月にフィンランドを訪問し，授業観察や研究者との研究協議を重ねた。
④フィンランドのユバスキュラ大学附属フィンランド教育研究所の上級研究員を地域連携センターの外国人特別研究員として招聘し，英語教育と英語教員の養成に関する共同研究を行った。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

①小学校英語教育センター所長として、大学の運営に参画するとともに，同センターの存在感のさらなる強化を図る。
②国際交流委員会委員として，本学の国際交流事業に貢献する。
③言語系コース（英語）の一員として，コース運営はもちろんのこと，大学運営にも積極的に貢献する。
④連合大学院言語系教育講座の主指導教員（指導学生は3名）して、同講座の運営に参画するとともに、同講座における本学の存在感を強めることに努力する。

2. 点検・評価

①小学校英語教育センター所長として大学運営や地域との交流に積極的に関与し，その責務を全うした。
②国際交流委員会委員としての責務を全うした。
③言語系コース（英語）の運営に積極的に参画するとともに，コースとして大学運営に関われる部分に関しては積極的に関与した。
④連合大学院言語系教育講座の講座代表をしての責務を遂行するとともに，3名の指導学生に対して博士号取得に向けての個別指導を行った。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携，国際交流等

1. 目標・計画

①附属学校での研究会に積極的に参加するとともに，同校教員と連携し英語教育分野について協同研究を進めるともに，附属学校での国際交流にも貢献する。（附属学校）
②教育委員会等から委嘱された委員会活動や講演活動，ならびに本学主催の公開講座・免許更新講習や教育支援講師・アドバイザー等制度などを通じて，大学と地域・社会との交流・連携を積極的に行い、社会貢献に努める。（社会連携）
③国際交流協定校をはじめとした海外の教育・研究機関との協力事業に貢献する。（国際交流）

2. 点検・評価

①教育実習，初等中等教科教育実践の授業，ならびに小学校英語教育センターの活動をとおして，附属学校との交流に積極的に関与した。（附属学校）
②沖縄県，奈良県，徳島県での教員研修講座の講師を努め，徳島県教育委員会や鳴門市教育委員会から委嘱された委員の仕事を着実にこなした。（社会連携）
③科学研究費補助金研究の一環として，なおかつ地域連携センターの外国人特別研究院制度を活用して，フィンランドの大学の研究者と交流を深めるとともに，平成25年度に実施を予定している小学校英語教育センター主催の「小学校教員のためのオーストラリア研修」のための準備を着々と進めた。９月にはオーストラリアの４大学を訪問し，情報収集をし，派遣先を決定し，すでに募集案内を県内・県外の小学校に発送した。

Ⅲ. 本学への総合的貢献（特記事項）